

2018年（平成30年）6月にカナダで発見された、遺伝子組換え小麦についてのQ&A

平成30年7月20日一部改定

問1

カナダのアルバータ州において遺伝子組換え小麦が発見されたことに関するカナダ食品検査庁(CFIA)の発表はどのような内容ですか？

(答)

6月14日(カナダ時間)にカナダ食品検査庁が行った公表の概要は以下のとおりです。

○アルバータ州南部の農道（アクセスロード）で、グリホサート耐性遺伝子組換え小麦を発見し、モンサント社が開発したグリホサート耐性小麦（MON71200）であることが判明。

※カナダ食品検査庁は、これまで遺伝子組換え小麦の商業栽培を承認したことはない。

○広範囲な調査の結果、発見された場所以外での遺伝子組換え小麦の存在は確認されていない。また、カナダ国内で流通販売されている小麦の品種とは異なることを確認している。

○カナダ食品検査庁とカナダ保健省は、今回の小麦のリスク評価を行い、動物、環境又は人の健康にリスクが生じないと結論づけている。

○カナダ食品検査庁は、今後3年間発見された場所において、遺伝子組換え小麦の有無を監視することとしている。

問2

本事案に対してどのように対応したのですか？

(答)

カナダ食品検査庁は、今回発見された場所以外での遺伝子組換え小麦の存在は確認されていないとしていますが、念のため、厚生労働省は7月9日、遺伝子組換え小麦（MON71200）の検査方法を検疫所等に通知し、我が国への輸入前に遺伝子組換え小麦の混入の有無を確認することとしています。また、必要に応じて検疫所におけるモニタリング検査を開始しました。

農林水産省では6月15日、カナダ産小麦に係る輸入入札、国内製粉企業等への販売を暫定的に停止しましたが、これらのカナダ産小麦について、遺伝子組換え小麦（MON71200）の混入の有無を検査した結果、すべて陰性が確認できたため、7月20日にカナダ産小麦の入札・販売の暫定的停止を解除しました。

厚生労働省としては、引き続き、食の安全を確保するため、農林水産省と連携して対応してまいります。